

龍飛崎～世界一・日本一の不思議なもの～

青森県津軽半島の彩(最)北端、津軽海峡に突き出た半島が龍飛崎です。西に日本海、北に津軽海峡さらに東に陸奥湾と三方が海に囲まれており、日本三大潮流のひとつ龍飛潮流が流れています。8月頃には有名になった「本マグロ漁」が始まり、運がよければ巨大本マグロの乱舞を目にすることもできるでしょう。

龍飛崎には、日本一強い風(年間平均風速 10.1m/秒)が吹いており、地元では「龍が飛ぶほど強い風」が吹き抜けているといわれています。突端には白亜円形の大型灯台があり、周辺は、1975年3月に国定公園の指定を受け、遊歩道での散策を楽しむことができます。天気の良い日には、津軽海峡を挟んだ北海道の松前半島や海峡を行き交う船舶を見渡すことができ、断崖絶壁の連なる龍飛崎からの眺めは正に絶景であります。

灯台近くにある「碑の丘」には、川柳作家の「川上三太郎」、幕末の思想家の「吉田松陰」、海上保安庁の初代長官「大久保燈青」、文人の「佐藤佐太郎」、「大町桂月」などがこの地に訪れて詠んだ句・詩を刻んだ碑があります。

碑の丘の少し下には、石川さゆりの「津軽海峡冬景色」の歌謡碑があり、ボタンを押すと2番の歌詞“♪あれが龍飛岬、北のはずれと……♪”が流れる仕組みになっていて、歌とともに龍飛岬の姿を実感することができます。さらに、龍飛岬観光案内所「龍飛館」前には、太宰治が龍飛を訪れたときの印象を綴った小説「津軽」の一節を刻んだ文学碑が建立されております。

龍飛崎の地下には、本州と北海道を結ぶ世界最長の鉄道トンネルが1985年に開通し、1988年に開業しました。その「青函トンネル」の概要は、次のようです。

- ① トンネルの長さが53.85kmで、世界最長(ドーバー海峡トンネル49.2km)
- ② つなぎ目なしのレールの長さが52.57mで、世界最長
- ③ 堀削された土砂が、663万 m^3 (10tダンプで98万台分)
- ④ コンクリートの量が、147万 m^3 (霞ヶ関ビル約3杯分)
- ⑤ セメントの量が、847,000t(セメント袋を積み重ねて富士山の850倍)
- ⑥ 鋼材の量が、168,000t(東京タワー42基分)
- ⑦ 働いた人数は、延べ1,370万人
- ⑧ 火薬の量が、2,860t(隅田川花火大会2,000発×数百回)
- ⑨ 最深部の圧力は、10円玉に100kgの圧力

青函トンネルは、構想から42年間もかけて完成しました。この一大事業を記念して1988年に建てられた「青函トンネル記念館」では、世界最長の海底トンネルの構想から完成までを音と映像、資料パネル、立体モデルなどを使ってわかりやすく説明してくれます。世界に誇る大事業の足跡や完成に導いた人々の最高の技術と情熱を背景に、青函トンネルの全てをダイナミックに体験することができます。

また、是非一度は訪れたいのが、ケーブルカー「もぐら号」で行く海面下140mの「体験坑道」です。日本一短い私鉄「青函トンネル龍飛斜坑線」は778mで、トンネル工事の作業坑として使われた一角に造られており、わずか8分で海面下140mへ到達します。海面下240mに総延長53.85kmのトンネルがどのようにして造られたのか、実際作業坑として使われた一角を展示ゾーンとして、掘削に使われた機械や器具が展示され、大工事の現場の雰囲気味わうことができます。所用時間45分で回れるという

見学コースになっています。また、トンネルの掘り方や完成に至るまでの行程も、パネルや音声での解説でわかりやすく説明してくれるので、非常に理解しやすいのが特徴です。

国道 339 号線は、青森県弘前市から東津軽郡外ヶ浜町に至る一般国道で、龍飛灯台付近から帯島付近までを結んでいますが、これまた不思議な車の通れない日本唯一の「階段国道 339 号線」です。

その概要は全長 388.2m、標高差 70m、この間の段数 362 段で、1974 年に国道に指定され、〔国道 339 号線〕の標識が階段上入り口、集会所前、階段下、階段下入り口の 4 箇所に設置されています。

この道路は昔からあり、坂の途中に学校や段々畑などがあって、地元の人が通学路や農道などの生活道路として利用していました。国道に指定された時点で、後々は車の通れる道路に整備する予定でしたが、急勾配であるのと道幅が狭すぎるということで、工事が延び延びになっていました。しかし、近くに迂回路として大型バスが通れる町道があったために支障がないということになりました。また、青森県の龍飛崎に車の通れない国道があるということが噂になり、「階段国道」の見学者が増えたことから、これを観光に利用するという予期せぬ結果となって、現在に至っています。

ほかに外ヶ浜町には、蟹田地区に「観瀾山公園」や「風の町交流プラザ・トップマスト」があります。また、平館地区には、江戸時代、松前藩が参勤交代の折に通ったという「松前街道」がその歴史をとどめ、樹齢 300 年を超える黒松並木が連なっています。そこには、「平館灯台」や「海と太陽のプレイフィールド・おだいばオートビレッジ」などの見所があります。

是非、景観と歴史と、ここでしか見られない世界一・日本一の不思議が織り成す龍飛崎を訪れ、感動体験を味わってください。

「青森県東津軽郡外ヶ浜町役場 商工観光課」（担当：倉内正聡）
電話：0174-31-1228

